オタネニンジン栽培暦（長野県）

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
旬	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
生育相と作業												
播種期					△——△ 採　種		△——————————△ 種子の催芽処理		△——————△ 播　種			
一年目	△——△ 日覆架設	○——○ 発　芽	△——△ 中耕・除草	△——△ 屋根補修	△——△ 中耕・除草			○——○ 地上部の枯死	△——————△ 間引き，野鼠駆除			
二年目	△——△ 日覆架設	○——○ 発　芽	△——△ 中耕・除草	△——△ 屋根補修	△——△ 中耕・除草			○——○ 地上部の枯死	△——————△ 移植，野鼠駆除			
三年目		○——○ 発　芽	○——○ 開　花 △——△ 摘　花 △——△ 中耕・除草	△——△ 屋根補修	△——△ 中耕・除草			○——○ 地上部の枯死 △——————△ 野鼠駆除				
四年目～六年目		○——○ 発　芽	○——○ 開　花 △——△ 摘　花 △——△ 中耕・除草	△——△ 屋根補修	○——○ 紅　熟 △——△ 中耕・除草		△——△ 収穫・調製	○——○ 地上部の枯死				

作業の内容

☆採種及び催芽
4～5年生の生育の良い株から採種する．
採種する株は，5月下旬頃，花蕾を2分の1程度に間引きし，7月下旬紅熟した果実を採取し，果肉を除去した後，種子を水でよく洗い日陰で風乾する．
種子と川砂を混合（4：6）し，11月まで催芽処理を行う．

☆土作り
青草，堆肥などの有機質を4,000～12,000 kg/10 a 数回に分けて施し，深さ45 cm程度の天地返しを年10回以上行い，土壌の物理学的性質を改善する．

☆播　種
播種量は，催芽済みの種子を一間口当たり，約900粒とし，条播する．

☆日覆い
ニンジンは陰地性の植物であり，萌芽したら日光の直射と雨滴を防ぐために小屋かけをする．
特に夕日を嫌うので，播き床は予め西日が入らない方向に作る．

☆定　植
10月下旬，一間口当たり32本（8列×4本）～40本（8列×5本）とする．

☆肥　料
化学肥料は用いない．

☆管　理
1年に5～6回の中耕・除草と病虫害の防除を励行する．

☆収穫・調製
収穫は4～6年生の9月上旬～9月下旬に行う．
床の一方から丁寧に掘り上げる．収穫後の調製法は目的によって4種類に大別される．

☆収　量
生根で10 a 当たり300～600 kgである．